

平成29年度 学力向上アクションプラン

尼崎市上坂部小 学校

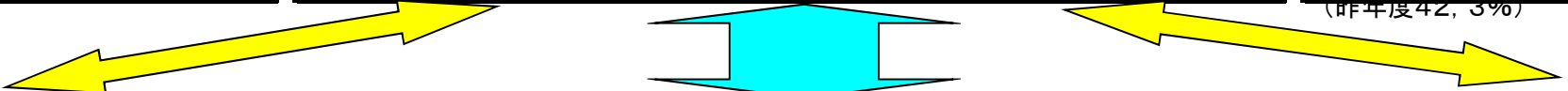
学力調査結果等から見た 学力向上についての課題

全国学力テストにおいて国語・算数においては全国平均レベルであり、毎年全国平均レベルを維持している。しかし、学習意欲が低く、意欲を高めることが求められている。その中で「国語の学習が好き」という割合が全国平均を上回っていた。これは昨年度のアクティブ・ラーニング型の学び合う対話を取り入れた国語の授業を実践してきた成果であると言える。しかしながら、全体的にはまだまだ意欲が低く、学習に主体的に取り組む、自らの力で課題を解決したり、友だちと関わり、対話しながら学習に取り組む、深い学びをめざして、意欲を高めていく必要がある。今年度も国語科を中心に教科研究に取り組み、国語だけでなく他の教科でも、主体的・対話的な授業を取り入れるようにしていきたい。また、一人一人の実態に応じた、きめ細やかな支援や指導をしてい

課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)		
授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組
<ul style="list-style-type: none"> ○国語科の研究を通して、主体的に聴き合う授業モデルの確立 ○校内研究を充実させるため研究対象である国語科における研修会に講師を招聘する。 ○教員の授業力向上のために自主研修会を実施し、若手教員育成をはかる。 ○教員の生徒指導力を高めるため、児童理解についての研修会に講師を招聘する。 ○学力向上の成果のある先進校の視察 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学力層に応じた学習支援の実施(補充、発展的な学習) ※学力向上3事業の授業補助支援を活用 ○レツトライ(朝の学習)時間の確保において学習習慣と基礎学力の定着をはかる。週1時間15分×35週 ○家庭自主学习ノートの活用 ※学力向上3事業学力定着支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○兵庫型教科担任制の活用(きめ細やかさと専門性) ○ICT機器を活用した授業実践 ○読書量の増加と学習意欲の向上を図るため、ボランティアによる読み聞かせを実施する。

本年度の具体的な目標

- 全国学力・学習状況調査において「国語の学習が好きか」と回答した割合が、3学期、同様の項目で校内調査結果が、1学期に比べて6割(昨年度52.3%)
- 全国学力・学習状況調査において「友だちの前で自分の意見や発表することが得意」回答した割合が、3学期、同様の調査項目において、1学期に比べて30パーセント以上(昨年度23.8%)
- 全国学力・学習状況調査において「授業では自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答した割合が、3学期、同様の調査項目において、1学期に比べて50%以上(昨年度42.3%)



校種間連携

- 小から中への円滑な接続を図るための教員間の情報交換の機会充実
- 中学校生活について生徒会の説明の実施
- 入学前テストの検証を踏まえた小中における授業の改善の研修
- 合同研修会の実施(中学校教員による小学校の授業研究及び小学校教員による中学校の授業研究)

活用する支援内容	
支援内容	具体的内容
(1)アクティブ・ラーニング推進支援	(1)アクティブ・ラーニング推進支援 佐世保短期大学講師 川端健二氏、関西国際大学準教授 百瀬和夫氏、元奈良女子大学特任教授 相田萬里子氏を講師として招きアクティブラーニング推進のため、指導助言を受ける。
(2)授業補助支援	(2)授業補助支援 国語の授業において聞き合い交流の準備のための児童の一人学びの支援や学習のふり返りを充実させるための支援を行う。また、算数において課題解決のための話し合い活動を充実させるために必要な支援を行う。
(3)先進校視察支援	(3)先進校視察支援 富山市立堀川小学校の研究大会に参加し、校内研究の参考とする。
(5)学力定着支援	(5)家庭においても主体的・計画的に学習に取り組む姿勢を育てるため、家庭学習の手引きや見本を作成し、自主的に予習・復習を進めることで学習習慣の定着を図る。
(6)地域人材活用支援	(6)本に関心を持つことと読書量の増加から学習意欲を向上させるため、ボランティアによる読み聞かせを行う。

家庭・地域との連携

- 「うち読」の実施による読書力の向上
- 家庭学習ノートの活用による学習習慣の定着
- 学力調査結果の公表
- 学校ホームページの発信